



# 南行通信

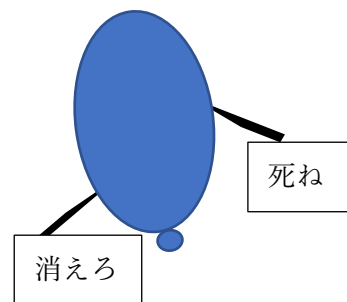
令和6年11月5日  
校長 中村 由美子



～やさしさいっぱい 夢いっぱい 元気いっぱい～

正門のイチョウの木から銀杏が落ちたり、キンモクセイの香りが渡り廊下に漂ってきたり、様々な場所で秋を感じることができます。

さて、10月11日、令和6年度の前期修了式を行いました。修了式では、6年生の代表に前期の「あゆみ」を渡すとともに、4月から子供たちと過ごす中でとても気になっていたことについて話をしました。それは、多くの子供たちの口から「死ね」「消えろ」などの言葉が出たり、中指を立てる仕草をしたりすることです。「死ね」「消えろ」「中指を立てる」などの言動は、その言葉や行為の意味や価値、また相手の状況や思いを考えての言動ではないため、相手とのコミュニケーションを拒絶してしまう状況を作り出すものになりかねません。さらには、相手の心を傷つける言動にもなり得ます。



そこで、修了式に、「死ね」「消えろ」「中指をたてる」ことが、どのような結果を招く恐れがあるのかを話しました。概要を載せます。

心は、周りの人のやさしさや愛情で大きく風船の様に膨らんでいく。でも、「死ね」「失せろ」などの言葉を投げかけられるたびに心の風船に細い針が刺さっていく。針が積み重なっていくとやがて風船は割れてしまうこともある。心の我慢が限界になり、本当に命を絶ってしまう人もいます。自分は何気なく言っている言葉でも、相手はどのように受け取っているのかわからない。だから、そういう言葉は使わない。嫌だと思ったら「なぜ嫌なのか」「どうしたいのか」を言葉で相手に伝えられる人になってほしい。さらに、誰もが大切な命を持っていて、命の終わりは誰かが決めるのではない。だから、「死ね」とか「消えろ」などと言わないでほしい。

最近では、「風船が割れちゃうよ」「そんなことを言ったら悲しいんだよ」などの声が聞こえるようになりました。素直でやさしく、元気いっぱいの子供たちに、相手をさらに思いやる心を育てていきたいと思っています。学校だけでは、難しいことです。保護者の皆様、地域の皆様、子供たちが豊かなかわりを持てるような言葉の使い方をお話しいただきますようお願い申し上げます。

## 第71回市川市小学校陸上競技大会

10月25日国府台スポーツセンターで、市内の5・6年生の陸上大会がありました。本校からも、3週間の練習に参加した20名が選手として参加しました。これまでの練習の成果を発揮し、一人一人が素晴らしい頑張りでした。

5年生男子 100メートル 3位

6年生女子走り高跳び 6位

入賞おめでとうございます。

## 総合防災訓練を行いました。

10月23日、大きな地震と火事が発生したという想定で防災訓練を行いました。市川市南消防署の消防士さんが来校し、起震車体験や煙中体験、消火訓練も行いました。消防士さんからは「地震はいつ来るかわからない。自分で命を守る行動をとろう」とお話をいただきました。ご家庭でも、家族と一緒にではないときに地震が来たらどうしたらよいか、話し合っておいてください。



## 卒寿の卒業式がありました。

11月2日全日警ホールで、昭和20年以降の戦後の混乱期に小学校の卒業式を行えなかった方の卒業式がありました。南行徳町立南行徳国民学校を卒業された大先輩が卒業証書を受け取られていました。